

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホームすみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 6 日	評価結果確定日	平成 31 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ①毎月地域カフェを開催して、地域の方の居場所づくりや地域との関係づくりを目指しています。
 ②その方らしい暮らし方や個別支援の充実を心がけています。
 ③法人キャリアパスを導入して、年間を通じて計画的に、職員研修を実施して、職員の質の向上を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 30 年 11 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街に位置し、散歩や季節を楽しめるよう美しい庭園があり、介護老人福祉施設が併設する。事業所は3階建ての2階部分、1階は小規模多機能ホームが配置されている。運営推進会議で、住民から「地域で安全に暮らせるよう高齢者の居場所造りをして欲しい」との要望を受け、事業所が主体となり法人全体で取組んだ。月1回地域カフェを開催し、理念の実践に積極的に取組んでいる。職員は利用者と日々の会話の中から思いや眩きをキャッチして、個別に「願い叶え」活動を実践している。法人全体でキャリアパス制度を取り入れ、年2回職員の自己評価を元に管理者と施設長が面談を行い、振り返りや今後の目標について話し合う機会がある。資格取得や能力に応じて給与に反映されるよう仕組みが整備され、誰もが働きやすい環境が整っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人誠和会では、誠実・信頼・継続と理念がある。地域密着型施設として、「すべての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活を継続出来るよう自立のお手伝いをさせていただきます。」を方針として、朝礼で唱和し、会議などでも理解を深め、共有し意識向上に努めています。	事業所独自の理念があり、朝礼で唱和している。職員は、利用者と一緒に食事や洗濯などを行い、日常生活を送る中で人生に寄添いながら、その人らしい生活ができるよう日々の支援に取り組んでいる。事業所が中心となり、地域カフェの活動を通して、地域密着型の理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域掃除、地域行事（夏祭りや運動会等）に積極的に参加しています。地域行事の参加の際や散歩でお会いすると、地域の方が声をかけて下さりったり、利用者も地域カフェにて参加され地域の方との交流を楽しまれています。	運営推進会議の中で、地域住民から「高齢者が地域で安全に生活出来るように居場所造りをして欲しい」との要望を受け、事業所が中心となり、法人全体で取組んだ。今年7月から月1回の地域カフェを開催し、30名程度の住民の参加がある。利用者と共にお茶やパンを作ったり、交流の場となっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要請により、認知症サポーター養成講座やふれあいサロンへ出向いています。今年度7月より毎月第3日曜日に、地域カフェを開催しています又、職員が地域連携会議へ参加し施設で出来る事や求められている事を検討しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、公民館長、地域住民、民生委員、地域包括、家族などの参加を頂き、サービスの実際、取り組みを報告し意見や助言を頂きサービスの向上に活かしています。	同法人の小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を開催し、公民館長や民生委員、地域包括支援センター、他事業所の職員や利用者とその家族が参加している。参加者より、腰痛体操や介護保険事業所の説明をして欲しいとの要望があり、開催した。運営推進会議では事業所の状況等について報告を行い、議題を決めて参加者から意見が出やすいよう工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば、地域包括や行政へ出向き助言をいただいたり、認知症キャラバンメイトとなり、要請があれば出向いている。	職員は、地域包括支援センターに事業所の便りを持参することもあり、行政から認知症サポーター養成講座の依頼がある。困難事例の受入の相談が入れば、行政に出向き直接話しを聞き、日頃から協力関係を築けるよう取組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置され、委員を中心に取り組んでいます。身体拘束適正化研修を法人で年2回開催し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。又、外部研修に参加しています。	日中、玄関や居室は施錠していない。玄関には人感センサーが設置されている。外出傾向のある利用者には、職員と一緒に付き添い、散歩や気分転換のドライブを行って支援している。近所の交番に声掛けをおこない、協力関係を築いている。職員は身体拘束に関する外部研修・内部研修に参加し理解を深めている。	
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修参加し、職員の虐待防止に努めています。又、自宅や事業所で虐待が見逃される事が無い様、職員間で変化や気づきの共有をするとともに、防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活支援事業や成年後見制度について外部研修等で学ぶ機会を設けています。又、ご家族からの相談に応じて、説明が出来るパンフレットなどの資料を施設玄関に置き、準備をしています。	職員は制度について外部研修で学ぶ機会があり、内部研修で職員に伝達研修を行っている。制度に関して、入所時に説明を行っている。家族から相談があれば、パンフレットを渡したり、専門機関を紹介して支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが大事と考え、申し込み→面談→契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら他職種連携して説明を行なっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると同時に、玄関にご意見箱を設置しています。家族の面会も多く、その際意見や要望が気軽に職員に言えるようご家族とのコミュニケーションを心掛けています。年2回 第三者委員会にて、報告助言を頂いています。	職員は利用者との日々の会話の中から思いや眩きをキャッチして、「願い叶え」活動を実践している。利用者より、お好み焼きを家族に食べさせたいとの希望があり、お好み焼きパーティを開催し、家族にも参加して頂いた。これまで参加していたコンサートの外出希望があり、家族と共に外出したり、食べたい物や席替えの要望なども運営に反映させている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、催し物、地域行事等毎月担当を決め運営に関わってもらっています。その他の提案・意見や要望等、職員アンケートにより、法人は検討し、出来る限り対応を行っています。	自己評価については、職員全員で意見を出し合い管理者がまとめた。管理者は日々の業務の中で職員からの相談や気になる様子があれば、時間を取って話しを行い、勤務変更や要望を取り入れている。職員から行事計画や物品購入やベンチの設置などアイデアが出た場合は運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続者には永年勤続功労が実施があります。系列法人内に保育所を設置するなどして、働きやすい職場環境を整え又、法人キャリアパス導入により、給与に反映され、各自向上心を持って働ける環境作りに努めています。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には、経験、年齢など様々な職員が従事しています。得意分野で職員の能力を発揮してもらっており、勤務形態は、各人の状況に合わせて対応しています。	法人全体でキャリアパス制度を取り入れ、年2回職員の自己評価を元に管理者と施設長が面談を行い、振り返りや今後の目標について話し合う機会がある。資格取得や能力に応じて給与に反映されるよう仕組みが整備され、働きやすい環境が整っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に職業倫理・介護現場における接遇マナー・人権について研修を行っており、職員全員で啓発活動に取り組んでいます。	法人全体で接遇委員会が設置され、委員会が中心となり、啓発活動を行っている。職員は人権に関する外部研修に参加し、年2回内部研修が開催されている。研修記録、報告書が整備されている。研修については年間研修計画が立てられ、計画的に実施されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、新人育成マニュアルに沿って育成する仕組みがある。又、法人キャリアパス導入により、レベルの応じた研修参加や目標管理シートにより、自己目標を設定し自己研鑽に取り組んで頂いています。力量アップの為の外部研修参加も促しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さわらにネットや西区・早良区グループホーム情報交換会「いとの会」の会員となり、ネットワークづくりや勉強会に参加し、サービスの質の向上に努めています。今年度は、ラン伴+に参加し交流を深めました。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居初期には、特に時間をかけて、ご本人との関わりを大切にしています。ご本人が困っている事、不安な事、要望等をご家族やご本人に伺いながら施設での生活ニーズと一緒に考え又、担当制にして関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力しています。		
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なのか」を見極めていきます。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談し対応に努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接しています。またその方の能力を発揮して役割を持って頂き、一緒に生活する仲間としての関わりを大切にしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や変化に応じて、ご本人の近況を伝え相談したり、ご本人の発する思いをご家族へ仲介し協力を頂き、ご家族と一緒に支える事を大切にしています又、担当者会議に参加して頂きケアプランに家族の思いを反映しています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時には、ゆっくり楽しんで頂ける様配慮しています。馴染みの人からの電話の取次ぎやお手紙を書かれるよう促したり、在籍していたコンサートへの参加等ご家族と協力し、今までの関係が続くよう支援を心がけています。	入居時に家族や本人、関係機関から、これまでの生活歴や馴染みの人や場所について聞き取りを行っている。家族や友人の面会時にはコミュニケーションを多くとるよう心がけ、利用者の関係性を把握するよう努めている。友人との外出や面会、電話、手紙などを取次ぎ、これまでの関係性を継続出来るよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を観察し、リビング席の配置を考慮したり、孤立しやすい入居者は職員が仲介しています。利用者同士困ったことを助け合い、家事等出来る方が分担して、支え合い生活されていますが職員は、見守り必要に応じてトラブル防止に努めています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり、契約終了になった入居者にも出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問しています。併設施設へ入所された方には、面会に行き、行事等でお会いする際声をかけ、関係継続を行っています。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に十分アセスメントを行い、日常のかかわりの中でも、生活歴・趣味・嗜好・性格を踏まえ、希望や意向の把握に努めています。自分で訴えられない方に対しては、ご家族や関係者からの情報やご本人の表情・状況を観察し、「どのようなことを望んでいるのか」「どうしたいのか」を見極め、対応を心がけています。	表情や行動、何気ない日常の会話やつぶやきの中から本人の思いや真意を汲み取ることが大切にしている。またそれを一人一人に実現できるよう支援する取り組みを「願い叶え」と名づけ、継続的に実践している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、生活歴や趣味・趣向、サービスを利用するにいたった経緯や今まで利用したサービス等について幅広く話を伺っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、生活リズム、過ごし方、心身状態の把握に努めています。その方の出来る事、少しの支援で出来る事、出来なくなっている事等の変化を観察し、今の状況を読み取り、ケース記録や会議・申し送りを通して、職員で情報を共有してその方らしい暮らしの支援に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当職員などで随時情報交換を行うと共に、月一度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行っています。ケアプランは3か月から6か月で更新時に担当者会議を行い、定期的に見直しをしています。必要に応じて、看護や法人内の作業療法士等にも相談をして、プランへ反映しています。	事前に主治医やかかりつけ医の意見をもらい、ケアマネ、担当職員、法人内隣接施設の看護師、管理者が家族の意見を踏まえ担当者会議で立案している。3ヶ月から6ヶ月ごとに評価見直しを行い、その都度本人家族から署名をもらっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別でケアプラン実施記録や日々の様子やケアの実践・気づきは生活記録に記入しています。又、15日・月末に担当者が経過記録を書き介護計画にも反映しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に伴い、検討し個別に合わせて、可能な限り柔軟な姿勢で安心して生活できる施設づくりを心がけています。		
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ参加し交流できる機会を確保しています。法人の祭りや餅つきに地域の方の参加を呼びかけ地域との関係づくりや今年度はラン伴で地域を歩き、認知症啓発活動にも参加しました。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が協力病院であることから、入居時に事業所の協力医へ変更される場合もあり受診や定期健診を実施しています。入居前からのかかり付けの希望があれば継続して受けられる様、受診の際、施設での生活の様子やバイタル状況等情報提供を主治医へ行っています。	希望があればこれまでのかかりつけ医の受診ができるよう支援している。家族が同行する場合は経過記録表や状況報告書をもたせている。受診結果については家族から法人内隣接施設の看護師が報告を受け、その後指示や情報を介護職員で共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を取っており、体調の変化や日頃と違う様子や気づきは、看護に報告・相談を行い必要に応じて、看護がご家族への連絡・受診対応を行っています。夜間もオンコールにて報告・指示を受けられるようにしています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行なっています。又、環境の変化による利用者の混乱等病院の要請時は、馴染の職員が面会に出向き、安心して治療が出来る様対応しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の在り方について本人やご家族の希望を伺っています。事業所で出来る事を説明して、緊急時対応や重度化についての同意書を頂いております。法人内に病院や特養施設があり、本人家族としては選択肢が多くあり、安心の一つとなっています。	重度化した場合の対応指針を定め、利用開始時に家族へ説明して承諾書をもっている。終末期に関しては関連法人の医療機関に紹介しているが、家族の意向を尊重し主治医と協議しながら事業所内のできる限り長く過ごせるよう配慮している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施しています。又、定期的に緊急時対応マニュアルの確認を行っています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年に2回防災委員主導にて併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施しています。訓練は、地域の方の参加があり、少しずつですが、地域の協力が得られています。	災害対策マニュアルを整備している。年2回の避難訓練は防災委員が実施計画を作成し、消防署の協力のもと利用者家族や地域住民の参加も得て、運営推進会議の際に実施している。非常食、飲料水は3日分を事業所内の収納庫に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の介護倫理や内部研修にて、人格の尊重、誇りやプライバシーの配慮の大切さを学んでいます。又、会議などでも言葉遣いや対応に関して確認を行い、職員間でも注意し合っています。	職員の倫理綱領や接遇マニュアルがあり、新人研修で徹底されている。利用者の立場から人格尊重やプライバシーをどのようにとらえるかを職員一人ひとりに実施したアンケートの結果を基にミーティングで協議する等内部研修でも取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的な働きかけではなく、ご本人が「どうしたいのか？」を大切にしています。生活の中で、思いや希望をその都度伺いながら、自己決定出来るように働きかけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、出来る事は時間が掛かっても見守り、居室で過ごしたい方、新聞を読みたい方、お話をしたい方、動きを把握して、希望に沿って生活していただいています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人希望でカラーやカットを行っています。季節に応じた洋服を一緒に選んだり、希望によりマネキュアを塗ったり、お化粧したりして職員と一緒に楽しんでいます。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、厨房職員が栄養バランスや季節を考慮し、献立や調理を行います。出来る力を生かしながら、調理、準備、片づけを一緒に行っています。行事食や寿司バイキングは、好評で希望により、外食なども行っています。	法人の厨房で調理された食事を利用者も一緒に盛りつけし後片付けも行っている。利用者の嗜好やリクエストに応じて事業所内でも調理する等柔軟に対応し、お好み焼きパーティ等実施している。おやつは毎日事業所内で手作りして利用者と職員と一緒に楽しんでいる。年に数回外食に出かけている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の管理を行っています。摂取量の少ない方は、ご本人の好み物を調べ提供又、こまめな声掛けなどを行い、随時、食事形態やトロミ等の検討を行い月1回の体重測定にて、体重管理を行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて、毎食後声掛けや口腔ケア介助を行っています。義歯は毎日ポリデントにつけて必要に応じて、提携歯科往診を受けています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や本人のサインを観察して誘導しています。又、入居時おむつやリハパン使用であっても、その方の力や声掛けにより、トイレでの排泄に向けた取り組みを心がけています。	利用者それぞれのサインをとらえ、居室ごとに設けられたトイレにそっと誘導して支援している。タブレット入力で排尿チェックし経過記録に自動記録される仕組みがある。排泄委員を置き、利用者に適切で気持ちのよい排泄支援ができるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて、一人一人の排泄状況を把握し、排便困難者にはオリゴ糖・オリブオイル・起床時の冷たい牛乳の提供や散歩・運動を促し、自然に排便できるよう支援しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人一人の生活習慣や好みの時間を把握し入浴の時間を考慮した入浴を心掛けています。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫やタイミングを考慮し又、同敷地内の施設温泉を利用し気分転換して頂いたり、入浴剤で入浴を楽しんで頂く工夫をしています。	職員が複数勤務する時間帯はいつでも入浴に対応している。外出後のタイミングや入浴剤の活用、一人ひとりに合わせた声かけの工夫で臨機応変に入浴ができるようにしている。入浴しない日は陰部洗浄を行い、皮膚トラブル等には毎日部分浴を支援している。隣接法人内の大浴場・武雄の湯で温泉を楽しんでもらう機会も設けている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を考慮し、適度な午睡や運動・就寝の支援を行ない生活リズムができるようにしている。又、不眠傾向のある方は、日中の散歩や活性化を促し、夜はヒーリング音楽や温かい飲み物の提供、一緒に過ごすなど安心して頂ける工夫を行っています。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れていつでも確認できるようにしている。予測される副作用については職員間で共有し、異常の際には看護報告している。薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の準備、片づけ等生活の中でその方の出来る事を探し役割を持って頂いています。好みの音楽を聴いて頂いたり、一緒に歌ったり、ビールを好まれる方には、時々提供したり、お庭でお茶を飲んだり・その方の趣味・嗜好に応じた関わりや支援を心がけています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等希望に沿って戸外に出かけています。季節感を感じて頂ける、桜・コスモス・紅葉観賞等外出計画を立てて出かけています。又、ご本人の願いを聞き取り、ご家族にも協力して頂きながら外出援助を行っています。	散歩は日常的にできている。食材は利用者と一緒に買い物に行っている。利用者の希望を実現するため、「願い叶え」の取り組みで外出の個別支援をしている。思いを表現できない場合も面会者とコミュニケーションを図って利用者への理解を深め、行動の傾向から希望を推し測って家族へ伝えたり、好みと思われる場所へ外出支援する努力をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されています。自己管理が出来ない方も、安心に繋がれば、お財布を持たれて紛失しないよう見守っています。お買い物の支払いは、力に応じて見守りながら支援しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、施設の電話で掛けて頂いたり、遠方のご家族やお友達からの電話やはがきの取次ぎを行い、関係が途絶えない様にしています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やソファは、利用者の状況により、レイアウトや座席を変え居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。対面式のキッチンからの、お料理の香りで生活を感じて頂き、窓から見える、高木樹で季節感を感じて頂いています。	事業所の下には樹々の緑に囲まれた庭が広がっている。天候の良い季節には庭でお茶会を楽しんでいる。利用者の声を反映させ食堂テーブルを増やして配置を変え、少人数でゆったりと食事や会話ができています。入口には枯れ枝や木の実をあしらった利用者の作品や利用者による生け花が空間を居心地よいものにしている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター横の椅子、リビングのソファ、食堂テーブルなどで思い思いに過ごされています。廊下を歩かれ疲れられた際には、ソファに座ってくつろいだり、玄関前の庭のベンチは、散歩後の休憩や木々を眺めリラックスする場所として皆様のお気に入りの場所となっています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで使っていた生活物品・写真などを持ってきて頂き、少しでも安心して過ごせ、自分の居場所だと思って頂けるような空間になるように配慮しています。お位牌や仏壇・ご自分が制作された人形、大好きな猫のぬいぐるみやお花等、ご家族に協力して頂き個性あふれた部屋になっています。	居室は清潔で整理整頓されている。タンスには故人のメモリアルコーナーが設けられている。「願い叶え」で実現できた外出やイベントの写真や、壮年期を過ごした思い出の場所の写真等が飾られ、一人ひとりが自分らしく思い思いに過ごせる居室作りがなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に合わせた生活導線に家具や物品の配置を行い、手すり設置、トイレや自室が判る印や名前を張り、出来るだけご自分の力で行動できる環境を整えています。歩行不安定で見守りが必要な方は、センサーマットやドアに鈴を使用し見守り、危険防止に努めます。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		